

夢湧き夢に夢中

第 8 号

令和 7 年 7 月 18 日 文責：大谷

大変こそ、大きく変わるチャンス！

イギリスの自然科学者、チャールズ・ロバート・ダーウィンは、「生物の進化に目的や方向性はなく、環境に適応した個体が生き残り、その特徴が遺伝していくことで種が変化してきた」と、自著「進化論」で説いた。そして、この説を引用した様々な考え方が、特にビジネスの分野で注目され、「(ビジネスで)生き残るのは、強い者でも賢い者でもなく、変化できる者である」というフレーズは、今や実業家や経営者だけではなく、広く一般的になっている。

先日、阿蘇市で老舗旅館を経営されている方のお話を聴く機会を得た。冒頭、阿蘇の観光業界全体がインターネットをはじめSNS等による急激な情報化社会の波によって顧客獲得に苦心されたことや、水害をはじめ地震、さらにはコロナによる世界的なパンデミックと、まさに予測困難な社会の著しい変化の中で翻弄されてこられたと話された。

しかし、このような困難な中にあっても「変化に流されず、我々もこれまでの考え方や手法を自らの手で変えていこう」と奮起し、どんなことがあるとも根っこがブレないように「ありたい未来」を描いたのだそう。その一例として旅行者にその地域に長く滞在してもらええるような「泊食分離」をいち早く導入したり、魅力的な職場になるよう従業員の雇用条件を抜本的に改善

したりと、慣例にとられない様々な変革に着手された。その結果、宿泊客の増加や営業利益の増収、さらには従業員の十分な確保などの成果を上げられたとのことだった。世界的にも「阿蘇」と言えばブランド化されている観光地の一つである。「(観光客を)待たせても大丈夫」だとはかり思っていた。しかし、実はその陰で「ありたい未来」に向けていかに変化していくか模索し、思考し、協働し、そして実行してきたか知ることができた。「この困難は、きっと誰かがどうにかしてくれるだろう」という【受け身】では、もはや社会の変化の中で「取り残される」ということのようなのだ。

一学期を振り返ると、入学式や体育大会がまるでつい昨日のことのように思えるくらい、あつという間だったと感じている。特に一学期は学年問わず多くの授業を拝見することができ、先生方と生徒の皆さんが一体となって、その時間のめあて達成に向けて個人で考えたり、仲間と話し合いながら深め合ったりする姿を随所に見ることができた。なかには、当初自分が考えていたことが、仲間と学び合ってきたことでどう変わってきたかしっかりと振り返ることができている人も多く見られて感心した。これは、すなわち学びを通じた自己の変化であり、わたしたちは学びの中でこそ、自己を変えることができるのである。一学期、素晴らしい学びを積み重ねてきた皆さんに「熱盛！」

一方で大変な夏が来ることも現実。特に三年生にとっては、まさに夢への大変な夏の到来である。しかし、悲観する事勿れ。前出の旅館経営者は、何度もこう熱弁された。「大変なのは変化していかないから。大変なときほど、大きく変わるチャンスです」と。勉強に部活、そして夢への挑戦…。《目の前に大変なことは数知れど、変わるチャンスと思えば、夏もまた好(よ)しかな》

■1学期は入学式に始まり体育大会や除草作業、引き渡し訓練など、多くの学校行事及びPTA活動に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございました。職員一同、心より感謝申し上げます。今夏も例年になく猛暑が続いております。どうかご自愛いただき、充実した夏をお過ごしになられますよう祈念いたします。